



写真1
銀杏並木

聖徳記念絵画館

聖徳記念絵画館(写真2)は、明治神宮外苑の北正面に佇む。1926(大正15)年に明治天皇・昭憲皇太后の御聖徳を永く後世に伝えるために造営された。館内では、1852(嘉永5)年の生誕から1912(明治45)年の崩御に至るまで、「大政奉還」「江戸開城談判」他、明治天皇とお妃である昭憲皇太后の生涯の事績を伝える80点の絵画が年代順に展示されており、激動の明治時代に触れることができる。

外観は花崗岩貼り、中央に径15メートルのドームを戴く左右対称の構成とし、当時流行のセセッション風の重厚な意匠でまとめている。内部中央の大広間の装飾は、床に大理石とモザイクタイル、壁面に色変わりの大理石と石膏彫刻、天井に石膏彫刻を用いるなど、当時の最新式の西洋の技術が結集されている。現在でも建築当時のままのドーム状の建物を見ることができる。2011(平成23)年、「直線的意匠と先駆的技術を採用した、わが国初期の美術館建築」と評価され、明治神宮宝物館と共に国の重要文化財に指定された。

紅葉の時期には、館内の絵画のみならず、建物自体を一つの絵画として楽しむことができる。明治神宮外苑の入り口でもある青山通りから続く銀杏並木(写真1)は、絵画館へ近づくにつれて低い銀杏が植えられ、遠近法によって実際の距離より遠方にあるかのように見える。銀杏並木と絵画館の希有な構図をカメラに収める人々で賑わう。

参考文献

一般社団法人新宿観光振興協会

https://www.kanko-shinjuku.jp/spot/c005-vi-20/article_409.html



写真2：聖徳記念絵画館

